
立待の月

ごろー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

立待の月

【Nコード】

N33230

【作者名】

じろー

【あらすじ】

月には兔が居るもんだ。

そう云って、男はへらへらと笑った。

今宵も私は夢を見る。男と、私と、立待の月の、只の泡沫の如き。

（前書き）

以前、ブログに掲載した作品です。

月には兎が居るもんだ。

そう云つて、男はへらへらと笑った。彼は今、玄関の段の所に座つて煙管をふかしている。どうもこの光景は何時か何処かで見たような気がする。何故そう云うのかと訊ねたところ、彼は、お前は浪漫と云う物を知らないのか、と鼻先で笑っただけで私の問いには一言も答えなかった。

なアに、付いて来りやア今に判るさ。

少し膨れっ面をした私を他所に男はよいこらしよ、と腰を浮かすと、尻をぽんと叩いて立ち上がった。そして、じゃア、と云つて引き戸を開けて外に出る。彼の着物は白地に藍の枯草模様で、丁度尻の部分は真白く、薄く皺が寄っていた。私は彼の背中を追つて家の外へ出ることにした。

ホラ、見てみる。

外は何時の間にか暗くなつていて、檸檬の様に黄色い立待の月がぼんやりと辺りを照らしている。男は得意気に月を指差した。私は其れに釣られて月を見上げる。私の記憶の内では月は確か、海だとかそう云つた物で凸凹している筈であつた。それなのに、男の指差した月には何処にも影は無い。まるでビードロの珠の様に、只只つるりとしているだけである。私は啞然とした。

私が立ち止まって月を見上げている間、男は何も云わずに草叢の中をずかずかと踏み入って行く。彼に目を戻したとき、着物の模様が月明かりの中で厭にくつきりと目に映った。

兎は居るか、兎は居ぬか。

男は草叢の中程まで来て、唐突に歌い出した。彼の白くぼつと光る着物が目に痛い。男の尻の部分の皺は、何時の間にか消えていた。

兎は居るか、兎は居ぬか。

男は歌いながら歩き続ける。私はシャツの袖を捲りズボンの裾を折って、其れを追いかける。暫くそうしているうちに、男はいきなり此方をくると振り返り、何か変わったことは無いか、と訊いて来た。無い、と答えると男はそうか、とだけ云って、また同じ様に歩き出した。

兎は居るか、兎は居ぬか。

男はなおも歌い続ける。歩き続ける。彼の着物の尻の部分には何時の間にか新たな皺が寄っていた。何故か無性に気になってじつと目を凝らすと、皺だと思っていた其れは着物の模様だと云うことが判った。しかし、何と無く合点がいかない。確か、彼の尻は真白だった筈だ。

何か変わったことは無エか。

男はもう一度振り返る。私は勿論、あった、と大声で叫んだ。そうか、と男は呟き、此方へ引き返して来る。男は此方に身体を向け

ているから、尻の模様は見えない。

兎は居たか、兎は居たか。

男はさつき迄とは違う歌を口ずさんでいる。彼が家の前まで戻つて来た時、私は変な違和感を覚えた。彼の着物が違つのである。夜闇をそのまま映した様な濃い藍の着物を着て、さつき迄着ていた白の其れを小脇に抱えている。

兎は何処ぞ、兎は此処ぞ。

男は白の着物を徐に広げる。夜風にさらされて、其れは月を隠す様にふわりと靡く。私は着物の後ろの身頃を見ようと覗き込んだ。ところが、着物は元通り真白く輝いている。新たな模様など何処にも無い。私はがっかりした。しかし…

どうだ、居たろう。

男の口許が弧を描く。うつすらと欠けた立待の月はさつき迄と相も変わらず輝いている。只一つ違つのは、其の顔が凸凹していることぐらいである。

其れを見て私は、成程、月に兎は居るものだ、と思った。そして、此の男が兎を捕まえたのだ、とも思った。

（後書き）

立待、居待、寝待。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3323o/>

立待の月

2010年10月18日06時49分発行